

2015年度 前期		リフレクションペーパー					
学科名	建築・デザイン学科						
科目名	建築デザイン						
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	前期		
必修・選択の別	建築工学コース:選択必修、建築コース:選択必修、デザインコース:選択必修						
担当者	井原 徹						
授業の到達目標 (シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・建築デザインの基本的構成要素を把握し説明できる。(B4) ・建築構成の分析と問題発見を行うことができる。(B4) ・建築デザインの主な理念と方法を把握し説明できる(B4) ・最近の建築デザインの傾向を把握し建築デザインの理論について説明できる。(B4) 						
日程と内容	<p>第1回(4/8): 導入講義: 授業の進め方と概要の説明、成績評価法。建築デザインとエンジニアリング</p> <p>第2回(4/15): 建築デザインの近代: 近代建築と計画のはじまり、転換期の建築デザイン、近代の巨匠の建築とデザイン</p> <p>第3回(4/22): 建築デザインの二〇世紀: 現代建築の視座、場所・構造・意味</p> <p>第4回(5/1): 建築デザインにおける日本の戦後: 日本戦後近代の建築、日本の建築と都市</p> <p>第5回(5/13): 建築デザインにおける表記の射程: 意図の伝達、子高の外在化</p> <p>第6回(5/20): 建築の原点と建築デザイン: 原始の小屋と建築デザインの理念</p> <p>第7回(5/27): 建築の要素と建築デザイン: 内と外、和と洋、壁と窓、床と柱</p> <p>第8回(6/3): 中間のまとめ</p> <p>第9回(6/10): 建築の形とデザイン: 単位と形、形の操作、形の組織化</p> <p>第10回(6/17): 建築の部分と全体のデザイン: 調和とプロポーション、身体と人間尺度、部分と全体</p> <p>第11回(6/24): 建築におけるひかり: 建築の光、陰と光、日本の光、多様な光</p> <p>第12回(7/1): 建築デザインと空間: 空間の位置づけ、連続な空間と非連続な空間</p> <p>第13回(7/13): 建築デザインと近現代都市: 近代の都市化、都市のイメージ、グローバリズム</p> <p>第14回(7/15): 建築デザインの持続可能性: 文化・リサイクル・省エネと建築デザイン</p> <p>第15回(7/22): 全体のまとめ</p> <p>定期試験(7/29)</p>						
成績評価基準	定期試験	60%	実技				
	臨時試験	10%	部外評価				
	報告書・レポート		プレゼンテーション				
	課題		計				
	演習	30%		100%			
授業到達目標の達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・建築デザインの基本的構成要素を把握し説明できる。(B4):毎回の演習により基本的構成は説明出来ている。 ・建築構成の分析と問題発見を行うことができる。(B4):建築作品の分析視点は理解されているが分析や問題発見では困難が多い ・建築デザインの主な理念と方法を把握し説明できる(B4):建築理念や方法は理解されている。 ・最近の建築デザインの傾向を把握し建築デザインの理論について説明できる。(B4) 						
反省点	建築作品を分析することは困難が多い。特に実際の建物が身近にないために教科書やスライドでは限界がある。出来るだけ実際の建物を見るように指導しているが見学等の機会を設定することを検討したい。						
来年度の計画	教科書の内容が豊富で、図版などを補足して講義を行っているが、資料が豊富に成るに従い学生の学習ポイントが不明となる傾向が見られる。今後は少し簡単な教科書に変更することも検討したい。						
授業評価アンケートに対するコメント	空間体験が乏しく建築空間の感覚的にでも体験することで興味や意欲が醸成されると思われる。今後は実際に建物を見て検討できるように指導していきたい。						
履修登録者数	48名	定期試験 受験者数	39名	合格者数	27名	合格率	69%